

フブ・服部の中国通信

春節です！

**「服部！竿にキズ出てるぞ！」、「うそおお(泣)」、「休み前だからって雑な仕事して…
これとこれとこれ全部修正！」、「ちょっと待って！まだ修正まで手が回らん！」**

悲鳴と怒号の飛び交う春節直前の二週間、工場にお手伝いに行ってきました。

こういう時期、工場は大きければ大きいほど荒れます。得意先数が多いため、特にこういった連休前には注文が集中しがちになり、受注量を整理してみると適正生産量を大きく超えていたりします。今回、金曜日と土曜日に張り付いたJ工場もそのパターンで、最終週は適正生産量の2倍以上受注をしていたようです。最終的になんとか出荷にこぎつけられたものの（上述の竿は事情を説明して納期をお待ちいただきましたが・・・）寿命の縮む思いでした。



1月25日午前J工場にて

はい、最終週の出荷日当日です。出荷の締め切り正午！ガラーンとした工場内にたった一人で平面研磨から手磨きまで修正をしてくれている研磨職人さん…

最終的には工場長まで加工を手伝ってくれ、なんとか出荷できましたが、本当にご苦労様でした…。

この時期恐ろしいのは、出荷しなければいけない注文が残っていようがいまいが、職人さんは期日が来れば帰省してしまうと言うことです。理由としては、職人さんによってはかなり遠隔地からの出稼ぎであること。帰省用のチケットは必ず事前に取らねばならず、もしそれをキャンセルするような事になると期間中の帰省はほぼ絶望的になること。「出荷が終わるまで給料を渡さない」と経営サイドでプレッシャーをかけても、給料を受け取らずに自分でチケットを確保し帰省してしまう人が少なからずいること、等かなり色々な事情があります。

ただ共通しているのが、帰省のチャンスは大部分の職人さんで春節のタイミング一度、差し迫った注文があるのでそうも言ってもらえませんが、中国も労働者が権利を主張する時代になったのだな、と思っ
てしまいます。

毎年お伝えしていることですが、このような状態ではもちろん品質が落ちます。弊社検品部隊も最善を尽くしてはおりますが、検品でカバーしきれない部分もあります。

やはり旧正月前に出荷しないといけないような注文に関しては、日本の正月休みまでに発注を終えてしまわれる事を強くお勧めいたします。

打って変わってこちらはなかなかのどかな風景です。↓何に見えますか？



もちろん石材工場ですが、福建省の同業者はこの写真を見せると大抵「石材工場に見えない！」と言われるほどに、良い意味で異質な存在です。

立地条件的にも崇武や南安の工場密集地とは少々離れたのどかな所にあり、経営者の性格にもよるのかもしれませんが整理整頓も行き届いています。



敷地内の畑には野菜を植え、鶏や豚を食用に養い自給自足をする。実際この食堂のご飯はとても美味しいです。また、寮も家族そろって住んでいる職人さんも多く、アットホームで経営者と従業員の距離も近い印象を

受けます。従業員の離職率も低いようで、聞いていると家族と住んでいるからと帰省しない職人さんもいるそうです。

良し悪しはあるのですが、賃金だけでなく福利厚生に職人安定の活路を求める。こういった方式も今後は一つの経営モデルになるかもしれません。

さて、今回は労働者の立場向上と経営者の頭痛の種、一つの解決策についてお話させていただきました。

少々お堅い話題だったかもしれませんが、ここまでお付き合いいただきありがとうございます。

最後になりますが、来月からは新旧暦ともに年明けになります。旧正月期間中見積もり等、少々対応が遅くなるのをお詫びするとともに、可能な限りの迅速なご返答ができるよう、最善を尽くして参りますので、本年も何卒よろしく願いいたします。

2014年2月 服部